

# 運営推進会議議事録

|         |                   |              |       |
|---------|-------------------|--------------|-------|
| 事業所名    | 幼老の郷 グループホームおっこう山 | 開催回数         | 第17回  |
| 開催日時    | 令和5年11月10日(金曜日)   |              |       |
| 開催場所    |                   | 議長           | 谷口 寛子 |
| 出席者名    |                   |              |       |
| 利用者     | 0名                | 地域包括支援センター職員 | 1名    |
| 利用者家族   | 3名                | 事業所職員        | 3名    |
| 地域住民代表  | 1名                | その他の出席者      | なし    |
| 知見を有する者 | 1名                |              | 合計 9名 |

## 議題

### 1、運営状況の報告

《1階フロア》男性：1名、女性：8名 計9名

平均年齢：88.2歳、平均介護度：2.0

《2階フロア》男性：4名、女性：5名 計9名

平均年齢：86.5歳、平均介護度：2.88

《3階フロア》男性：2名、女性：6名 計8名

平均年齢：87.6歳、平均介護度：2.0

《全体》 平均年齢：87.4歳、平均介護度：2.3

夏の暑さから解放され、過ごしやすい気候の中、できるだけ散歩などの時間がとれるようにスタッフ同士声を掛け合いながら支援している。

今年はインフルエンザが猛威を振るっており、感染者が出ないように対策を講じていきたい。職員が持ち込むことのないように、職員自身、毎日の体調管理にも気を付けていく

少しずつ冷え込みが厳しくなってくるので、室温管理や服装の確認を行っていく。

### 2、活動報告

#### ・9月18日 敬老会

1階フロアを会場にし、3フロア全員集まって敬老会を行う。

「傘寿」「卒寿」「米寿」の方に職員手作りの帽子と胸の飾りを準備する。理事長より、お祝いのカードとお花を手渡して頂く。涙される利用者様もおられました。職員による余興で「真っ赤な太陽」で踊ったり「365歩のマーチ」で一緒に体操したりと楽しい会になる。

別日に、園庭でこども達から敬老のプレゼントも貰う。

#### ・9月食レク

「きのこのキーマカレー、かぼちゃと大豆のヨーグルト和え、メロン」

「オムライス、豆腐サラダ」

「栗ご飯、海鮮春巻き、ほうれん草のお浸し、豚汁」

#### ・9月2日 夕涼み会

こども園で夕涼み会が行われ、地域の方や卒園児も参加する大きなイベントにグループホームも参加する。

おっこう山こども園は50周年を迎えます。40周年を迎える某夢の国に因んで園庭から見えるグループホームはホーンテッドマンションならぬ「オコッテッドマンション」。窓ガラスに電飾を付け、こども園から見える廊下にはお化けの飾り付けをして、入居者様には園庭が見えるよう窓際に移動していただき、こども達に手を振ります。仮装パレードから始まり、よさこいなどを見学する。

こども園の田んぼに稲刈りの様子を見学に行く。10月にはこの新米を食べることが出来る。

・10月19日 運動会

1階フロアにて、紅白に分かれて向かい合わせに座り、運動会を行う。

各フロア代表の利用者様の選手宣誓から始まり、「タオルリレー」「玉入れ」「パン食い競争」の競技を、途中「365歩のマーチの歌体操」を挟みながら行う。全員に職員手作りの金メダルをお渡しし、たくさんの笑顔を見る事ができました。

昼食は、しゃぶしゃぶと炊き込みご飯のお弁当をお取り寄せする。

・10月食レク

「ホットプレートで作る煮込みハンバーグ、スープ、杏仁豆腐」

「炊飯器の炊き込みピラフ、かぼちゃのクリームシチュー」

リクエストのあった「ちらし寿司、茶碗蒸し」

・こども園との交流

いざという時、こども園の先生方にも助けてもらえるように合同での避難訓練や消防訓練を行う。

こども園の運動会に、阪神のユニフォームを着たり、運動会に向けて制作したポンポンを持って、こども達を応援する。

さんまの給食の日には、テラスでさんまを焼き、焼きたてを提供する。

職員研修

9月福祉用具の設置場所・使用方法

外部研修：カスタマーハラスメント

10月 感染症予防

外部研修：記録作成研修

リーダー研修

3、事故報告

※事故の内容については別紙参照

4、ご意見・ご要望

あんしんすこやかセンター 守口様

神戸くらしのレポート紹介

神戸市内で起きている詐欺やトラブルが載っている。さまざまな詐欺等の電話がかかってくる。年末にかけて海産物の勧誘や火災警報器、消火器などに関する詐欺等が増加していく。どこの家庭でもかかってくると思って欲しい。気を付けて頂きたいと思う。少しでもおかしいと思ったら、「神戸市消費生活センター」に相談して欲しい。65歳以上の方は「あんしんすこやかセンター」に連絡してもらえれば警察や神戸市消費生活センターと連携して対応していく。

地域で実施している市民フォーラムの紹介を行う。

ご家族

初めて参加させてもらった。勉強ができればと運営推進会議に参加した。他人事で考えていたが、家族が2年前にアルツハイマー型認知症になった。これから学んでいきたいと思う。

ご家族

事故対策についての質問

居室の中にセンサーを置いて転倒したことがわかるようにしているのか？

→利用者様がベッドから足を下した際にセンサーが反応し、動き出す前に職員が見に行くことができるように設置している。全ての方に設置しているのではなく、職員間で転倒リスクがある方を検証し、家族様との相談の上、必要に応じて設置している。

ご家族

カーブミラーを設置することで、どの方向からも確認できるように手配され、なるほどと思った。自分の認識とずれて動けると思い込んでいる。みんな年を取っていく中、寄り添ってもらえている。感謝している。

あんしんすこやかセンター様

いろんなイベントやセンサーを使い利用者の行動を把握してその都度対応していることやいろんなことに目をむけて研修されていること、カーブミラーの設置など職員が頑張っていると思う。写真を見て、寄り添っているとを感じる。施設によっては人員不足等で対応できない施設がある中、職員や幹部の方が考えて頑張っておられると感じた。

地域住人代表

小さな気づきで安心できる環境が作れている。地域の知り合いの方が写真に写っていて、いつも笑顔がみられる。自宅で生活されていた時とは顔が違う。関係性ができていて、安心して過ごしているからだと思う。職員の努力だと感じる。

義理の姉夫婦の介護をしている。グループホームに入りたかったが、昼夜逆転と高血圧になり、病院にはいることになった。センサーが反応せず転倒骨折した。今後の生活も行先も決まらず、今後どうしていくべきか考える。安心して生活できる環境があることは幸せだと思う。

次回の開催 令和6年1月19日(金) 14:00 ~ 15:30

開催場所 グループホームおっこう山

| 種別 | 件数 | ①事故の内容(事象要約)   | ②事故の考えられる原因  | ③再発防止に向けての対策   |
|----|----|--|--|--|
| 転倒 | 7  | <p>① 鏡で髪の毛をセットされ、自席に戻ろうと振り返った際、バランスを崩し転倒する。</p> <p>② トイレ後、便座から立ち上がる際にふらつき転倒する。(2件)</p> <p>③ 居室にて物音があり訪室。ベッド横で横になっている所を発見する。(2件)</p> <p>④ 自席から立ち上がった際、ふらつき転倒される。</p> <p>⑤ 椅子に座るよう促すが、園庭を気にされ、落ち着きなく歩かれていた。その後、脱衣場へ移動し、椅子に座る際にふらつき転倒される。</p> | <p>① 筋力低下もあり足元が不安定になっていた。</p> <p>② トイレ中は職員が離れているため、対応に遅れてしまった。</p> <p>③ トイレに行こうとされ、足に力が入らずその場でしゃがみ込んだ</p> <p>④ 本人が向いている方向とは逆から職員に声をかけられ、重心が安定せずふらついた。</p> <p>⑤ 認知症の進行により全ての行動の理解が難しくなっている。</p> | <p>① 職員が近くで見守りを行い、整容してもらう。</p> <p>② トイレ内の動きや物音等が把握できる距離で待つ。</p> <p>③ センサーの設置。手すりを設置し、居室内の環境を整える。</p> <p>④ 声かけは本人の近くで行い移動時は横で見守りを行う。</p> <p>⑤ 本人が落ち着く席に案内し、ひとつひとつの行動を最後まで見守る。</p> |

9月10月の事故の振り返り（転倒事故7件）

下肢筋力の低下による転倒が見られる。身体状況の変化に合わせて介助方法を変更していく。職員の声かけする位置や方向によってもバランスを崩してしまうケースが出ている。利用者の身体状況や認知症の進行をしっかりと理解し、対応していくことが必要と思われる。研修や会議等で全職員にレクチャーしていく。

また、建物の構造上、視覚になっていた洗面所付近に鏡を設置した。職員がどの位置にいてもフロア全体が見渡せ、利用者の動きが把握でき、必要に応じて迅速に対応できる環境を整え、事故を未然に防いでいく。